

いきいき  
まえばし人



日本百名山を制覇  
井野 弥生さん・68歳  
小屋原町

山のあらゆる表情を楽しみたい

昨年秋に行った南アルプスの白峰三山縦走で、日本百名山のすべてを登りきった。

「達成したときはただただうれしくて、『やった!』という言葉以外出てきませんでした。感無量です」

山との出会いは52歳の時。友人に誘われてハイキングクラブに入り、どんどん山登りの魅力に引き込まれていった。そのころは、特に百名山は意識していなかったという。

「百名山制覇を目指していた友人と一緒に登っていて、気が付いたら制覇まであと15というところまで来ていたんです。意識してからは、がむしゃらに登り続けました」

百名山にも名を連ねる赤城山は大好きな山の一つ。こっちはツツジの咲く時季に、赤城全山縦走に挑戦する予定だ。これからは好きな山にのんびり登りたいと笑顔で語る。

「赤城山は気軽に山に出掛けられて、冬でも登れるのでよく行きます。今からツツジの時季が楽しみです。なかにも山形県と秋田県にまたがる鳥海山などにも登りたいと思っています」

山登りに大切な体力が落ちないよう、冬でも2週間に一度は山に出掛けている。山で培った自慢の体力で、平日は毎日仕事に励む。

「会社にも応援していただいているので、本当に感謝しています。趣味は仕事があつてこそ楽しめる物。仕事への期待に応えられるよう、一生懸命がんばらなければ」

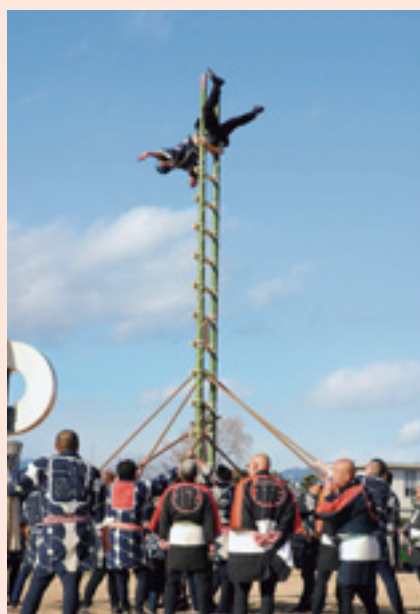
これからも健康に気を付け、日本中の山を元気に登り続けてほしい。



福を求めて大盛況の初市

1月9日、恒例の初市まつりが中心市街地で行われました。国道50号の本町通りでは、だるまや縁起物などの露店が並び、売り買いをする威勢のいい声。1年の福を求める多くの人たちで夜遅くまでにぎわいました。

きりりと消防隊出初め式



新春恒例の消防隊出初め式を1月10日、前橋公園で消防隊員など約1,000人が参加し開催。伝統のしこ乗りや鼓笛なども披露され、集まった大勢の観客からは大きな拍手が送られました。

広報まえばしが県1位に

県と県広報協会が主催する、平成22年市町村広報コンクール広報紙部門市の部で、広報まえばしが1席に選ばれました。特集「TONTON食べよう!」を掲載した12月15日号が、全国広報コンクールへ出品されます。



クローズアップ



二十歳の門出を盛大に祝う

1月10日、グリーンドーム前橋で成人祝が開かれました。高木市長のあいさつに引き続き、ダンスパフォーマンスや抽選会、音楽ライブなどの「はたちのつどい」を実施。晴れ着に身を包んだ新成人たちは、懐かしい旧友との再会に話を弾ませていました。

いにしえ  
万華鏡

その十一

古き良き時代を伝える

問い合わせは 文化財保護課 ☎2331-9531

国登録有形文化財 水道資料館(旧浄水構場事務所)

水道資料館は、県道前橋・箕郷線の岩神町交差点を1きほど北上すると見える、敷島浄水場敷地内の南端にあります。同館は隣接する配水塔と共に、本市で最初に国登録有形文化財として登録された物の一つです。国登録有形文化財とは、平成8年に新たに加わった保護制度。指定文化財以外の物について、活用に重きを置いて保存を図ろうとするものです。

同館の建物は、前橋上水道事業の創業時に事務棟として建設され、昭和4年に完成しました。平成元年には水道事業60周年を記念して水道資料館として公開され、現在に至っています。

同館の設計者は、大正時代に「建築非芸術論」を提唱した建築家・野田俊彦です。鉄筋コンクリート造2階建てで、床面積は約290平方メートル。物見塔のある屋根や2階部分には半円形の窓が配置されています。さらに、外壁の一部や玄関のひさは曲面仕上げに。「建築物は実用に供すべきであり、芸術として扱うべきではない」と論じた野田の設計とは思われないほど、非常にしなやかな造りです。

また、隣接する配水塔は市民から水道タンクと呼ばれ、親しまれています。同館と一緒に近代水道百選にも選ばれ、現在も現役で活躍中。ぜひ、水道資料館と配水塔を間近でご覧ください。



昭和の薫り漂う外観



2階に並ぶ半円形の窓